

(8) 中国



中国地域では、景気は回復している。

- ・ 鋳工業生産は堅調に推移している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

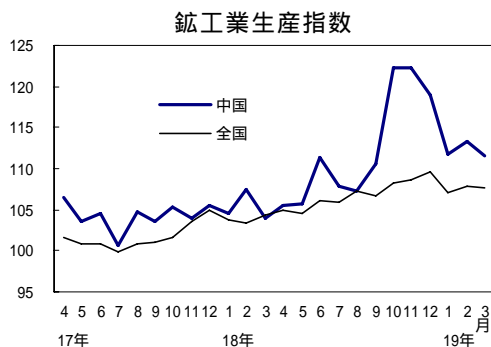
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 19 年 2 月）	今回（平成 19 年 5 月）	
住宅建設	おおむね横ばい	減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鋳工業生産は堅調に推移している。

化学は、自動車、家電関連向けを中心に好調だったことから、堅調に推移している。鉄鋼は、自動車、造船等を中心とした需要が輸出も含めて好調だったため、5 四半期連続で増加している。輸送機械は、完成車の国内向け需要は引き続き伸び悩んでいるものの、国外は、北米や欧州向けが好調なことから堅調に推移している。一般機械は、自動車向け及び、印刷機や自家発電用蒸気タービンが海外向けに好調であったため、堅調に推移している。電子部品・デバイスは、前期の反動により、3 四半期ぶりに減少したものの、携帯電話やゲーム機向けを中心に好調だったことから、堅調に推移している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成 19 年 3 月の中国は速報値。

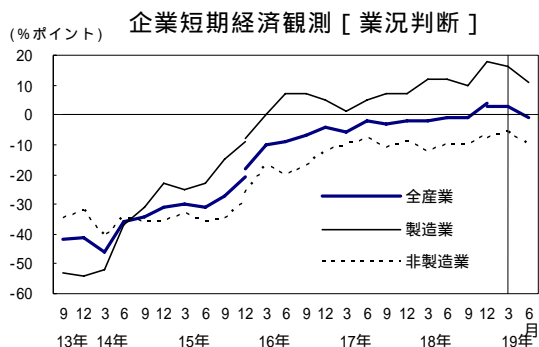
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
化学	17.6	2.1	2.2	3.8	6.5
鉄鋼	12.1	4.7	2.3	4.6	1.9
輸送機械	12.0	8.5	6.9	1.7	16.8
一般機械	10.4	10.1	4.3	0.5	12.1
電子部品・デバイス	7.6	62.5	27.2	13.8	-
鋳工業	100.0	11.6	7.4	1.3	10.0

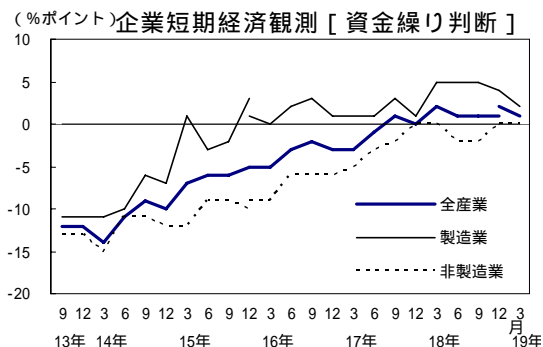
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 5 業種。
2. 1~3 月期は速報値。
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

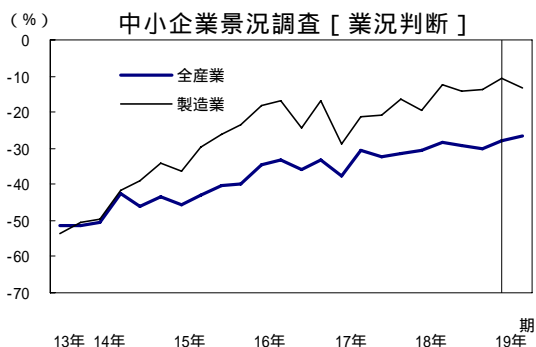
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年6月は予測。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

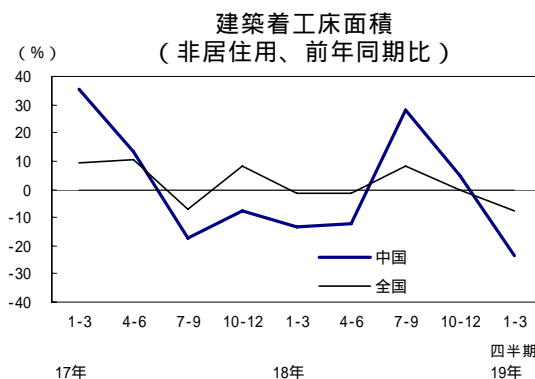
「自動車関連及び精錬所関連からの受注は好調であるが、その他については大きな変化はない(化学工業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 18年度の設備投資は前年度を上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績見込み	19年度見込
全産業	4.1(0.2)	13.8
製造業	0.6(1.7)	14.8
非製造業	12.2(2.1)	12.2

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している。

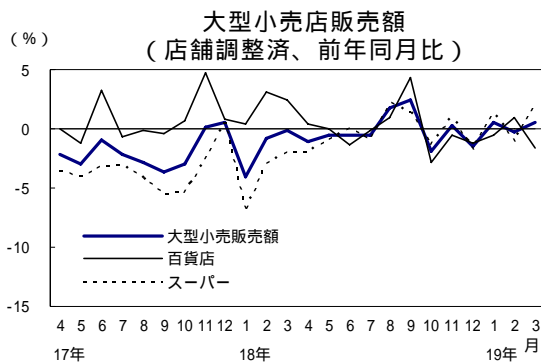
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、初売りやクリアランスセール、バッグ、アクセサリなどの身の回り品は好調だったものの、暖冬の影響により、衣料品を中心とする冬物商材が伸びなかったことから、前年を下回った。2月は、気温が比較的高めに推移したため、春物衣料品が動きを見せたほか、バレンタイン商戦も好調だったことなどから、前年を上回った。3月は、催事効果や改装効果により、飲食料品は伸びたものの、中旬以降、気温が低下し、春物衣料品が伸び悩んだことなどから、前年を下回った。

スーパーは、衣料品が振るわなかったものの、飲食料品が好調だったため、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

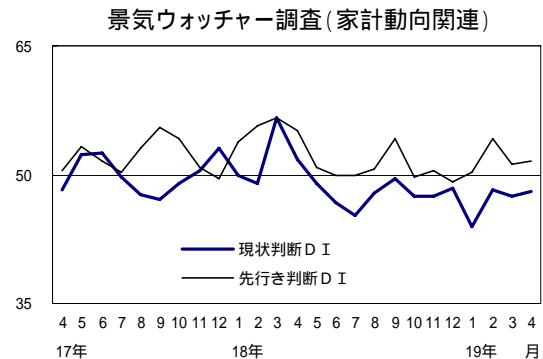
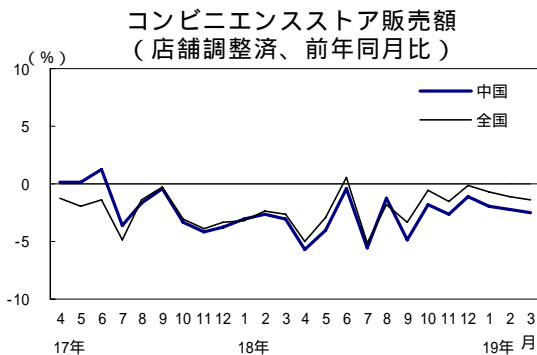
「婦人服業界は、特にヤングについては売れ筋のTシャツやワンピースの動きがなく、ヒット商品も生まれず、かなり厳しい状況であった。子供服については、一人の子供にかかる費用は年々上昇している。また、北海道物産展は大変好評で、客は衣料品より、食の方をかなり高い位置においている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	18年4-6月	7-9月	10-12月	19年1-3月
大型小売店	0.7	1.0	1.1	0.3
百貨店	0.3	1.4	1.5	0.4
スーパー	1.0	0.8	0.8	0.8
コンビニ	3.4	3.9	1.8	2.2
景気ウォッチャー	49.1	47.6	47.8	46.6

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

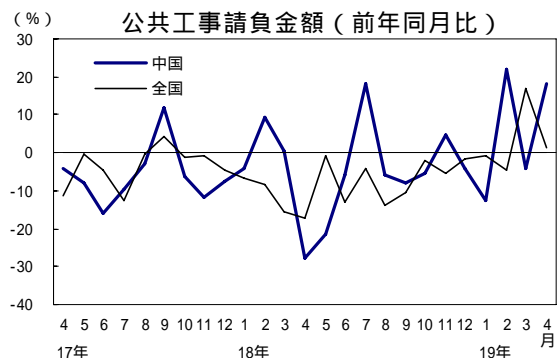
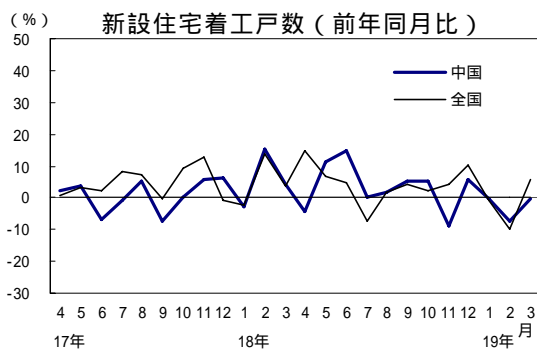
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

分譲が前年を上回ったものの、貸家が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

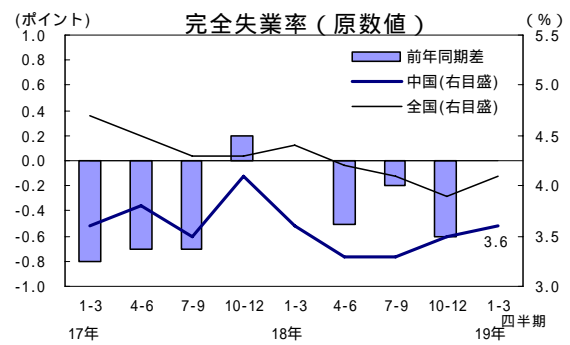
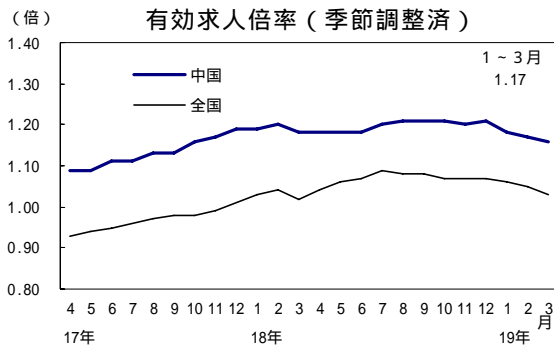


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査 (4月)[雇用関連 (現状)]

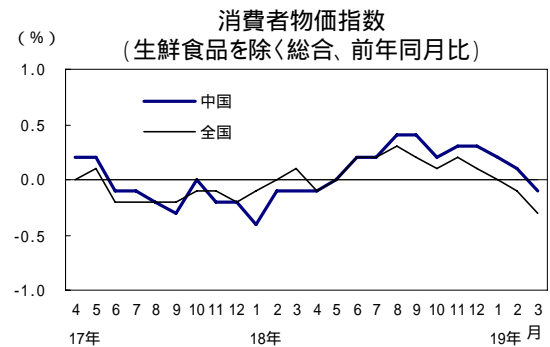
「コンビニ新規オープンに伴う募集などで小売業及び、業務請負の電子部品製造業で大幅増員がなされるなど、求人全体では若干増加傾向にある(職業安定所)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	18年4-6月	7-9月	10-12月	19年1-3月	19年4月
倒産件数	145	175	156	158	44
(前年比)	3.3	49.6	2.0	14.1	22.2
負債総額	498	1,208	394	611	162
(前年比)	31.9	185.2	37.1	20.8	23.8



景気ウォッチャー調査 (4月)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・新生活が始まった社会人、学生を中心に光電話の申込が殺到している。工事も班数を増やす等対応しているが、開通待ちの状況が続き、嬉しい悲鳴をあげている(通信業)

<先行き>

・暖冬のため冬物は不調に終わったが、その分夏物の販売期間が長くなり、売上も増加する(衣料品専門店)

景気ウォッチャー調査 (合計)

